

東京書籍の高校家庭科ニュース



「資産形成」どう扱う？

(家庭基礎 p.192-197 家庭総合 p.242-249)

新学習指導要領はどう変わった？

今回「資産形成」について明記されたのは「学習指導要領解説」です。次のように、生涯を見通した経済生活を立てるにあたっての1つの視点として「触れる」ように記されています。



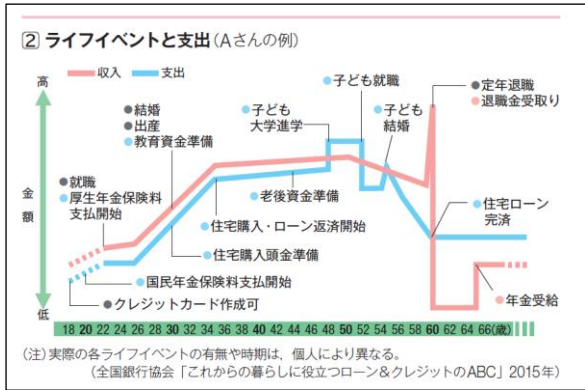
C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画 (抜粋)
 家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れるようにする。
 (文部科学省「【家庭編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説」2018年)

教科書では？

弊社教科書では「資産形成」の視点を以前から扱っており、令和4年度教科書ではどのように扱うか編集委員会で検討した結果、次の点を中心に解説をしています。

- ①生涯を見通して自分の資産形成をしていく必要がある。
- ②資産形成の方法は貯蓄だけでなく、さまざまな金融商品で運用していくという面もある。
- ③金融商品にはそれぞれに特徴があり、ノーリスク・ハイリターンの商品はないことから、自分でリスクとリターンの特徴を理解して、場面に応じて使い分ける必要がある。

【教科書で扱っている資料の例】 (家庭基礎 p.195-196 家庭総合 p.246-247)



① 主な金融商品の特徴

投資する側と投資される企業などとの間に第三者が入るものを間接金融、入らないものを直接金融という。目的や期間に合わせて、安全性の高い方法で着実に蓄える資産と、積極的に運用してもよい資産の割合を見直しながら金融商品を選択し、家計資産を形成していく。

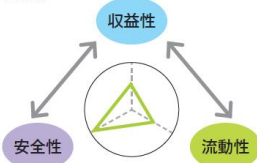
間接金融	普通預金	金融機関の普通預金口座に預ける。いつでも引き出せる。
	定期預金	満期日まで引き出せないことを条件に、普通預金より高い金利がつく。
	外貨預金	外国の通貨で預金する。為替相場によっては日本円で元本割れする。
直接金融	投資信託	預けた資金を専門家が運用方針に従い株式や債券などに運用し、その成果を還元される。元本割れの可能性がある。
	債券	借入れのためにあらかじめ利率や満期日を約束して発行される。公債(国債、地方債など)や社債、金融債などがある。
	株式	株式会社の資金集めのため発行される。株主は、株主総会の参加や、保有数に応じて議決権の行使なども可能。

② 安全性、収益性、流動性

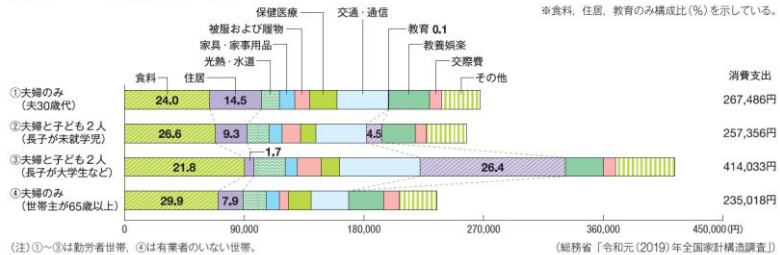
安全性、収益性、流動性の3つは運動しており、例えば収益性が高くなると、安全性や流動性は低くなる。

安全性	元本の保証の度合い
収益性	利回りのよさ
流動性	預金期間などが固定されずに容易に現金化できる度合い

[定期預金の例]



④ ライフステージ別消費支出の構成



消費者教育のご授業に役立つ教材や資料の例

ここでは、教科書に掲載している内容からさらに深めてご指導なされたい場合に役立つ、さまざまな団体の教材や資料をご紹介します。資料のご請求など、くわしくは各団体にお問い合わせください。

○「資産形成」や「金融教育」に関する教材や資料

○消費者庁「デジタル社会の消費生活」

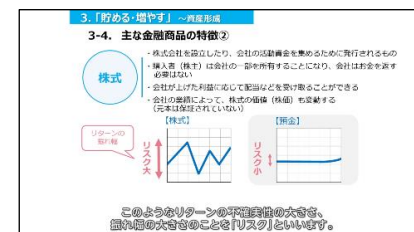
動画やスライド、ワークシートなどのほか、「家庭基礎」5時間を想定した指導案もあります。



https://www.caa.go.jp/policies/future/project/project_003/demonstration/materials/

○金融庁「高校生のための金融リテラシー講座」

高校生向けの解説動画を公開しており、資産形成についての動画もあります。



<https://www.fsa.go.jp/ordinary/douga.html>

○日本証券業協会「金融教育応援コーナー」

「金融クエスト」「株式学習ゲーム」「みんなの経済ワールド」などの学校向け金融教育教材や、指導案などがあります。また、日本証券業協会では教育関係者向けセミナーの開催や、先生向けメールマガジン「5分で話せる金融経済」の配信などを行っています。

<https://www.jsda.or.jp/gakusyu/edu/index.html>



○証券知識普及プロジェクト「金融経済ナビ」

日本証券業協会や日本取引所グループ等8団体によるウェブサイトで、金融経済についての教材や指導案、動画、マンガなどがあります。



<https://kinyu-navi.jp/>

○全国銀行協会「シリーズ教材 お金のキホン」「はじめてのサステナブルファイナンス」など

金融教育に関するさまざまな教材があります。学習指導要領の内容から資料を検索することもできます。



<https://www.zenginkyo.or.jp/education/>

○消費者庁「消費者教育ポータルサイト」

全国のさまざまな団体や自治体、消費者庁などが作成している消費者教育の教材や注意喚起チラシを検索することができます。また、取組事例や講師情報も調べることができます。



<https://www.kportal.caa.go.jp/>

○「消費者教育」に役立つ教材や資料

○消費者庁「社会への扉」

高校生向けの、「自立した消費者」育成のための教材です。教師用解説書や確認シートもあります。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/material.010/



○生命保険文化センター「君とみらいとライフプラン」

生活設計やリスク管理の視点を学べる教材で、教員向け手引き書もあります。生命保険文化センターでは、ほかにリスクマネジメントや成年についての授業セット提供やセミナーの開催などもしています。

<https://www.jili.or.jp/school/yokoku/index.html>



○知るぽると(金融広報中央委員会)「これであなたもひとり立ち」

高校の授業を想定した金融教育の教材です。知るぽるとでは、ほかにも「きみはリッチ？」などの教材のほか、イベント・セミナーの開催や実践事例の提供などもしています。

<https://www.shiruporuto.jp/education/>



○第一生命「ライフサイクルゲームⅢ～生涯設計のススメ～」

すぐろく形式の人生疑似体験ゲームを通して結婚・住宅購入などのライフイベント、病気・怪我などのリスク、振り込め詐欺や架空請求などの消費者被害などについて学べる消費者教育・金融保険教育教材です。

https://www.dai-ichi-life.co.jp/tips/lc_game/index.html



ほかにも先生方がご活用されているおすすめのものがあれば、ぜひ編集部にご紹介ください！